

|     |      |
|-----|------|
| 貯 法 | 気密容器 |
|-----|------|

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 承認指令書番号 | 農林水産省指令 23 動薬第 1289 号 |
| 販売開始    | 1988 年 10 月           |

使用前に必ず本書を読み、内容を理解したうえで使用してください。  
また、本書を必要なときに参照できるように大切に保管してください。

### 動物用医薬品

#### ハロゲン系乳頭消毒剤

# PVPヨード液10%「フジタ」

## PVP-IODINE SOLUTION 10% 「FUJITA」

本剤は、アルブミンの代用として用いられていたPVP（ポビドン）とヨウ素の錯化合物であるポビドン・ヨードを有効成分とした、5 倍に薄めて使う濃厚溶液です。

錯化合物化したことにより、本来ヨウ素が持っている強い殺菌力を弱めることなく、刺激性を一段と軽減することができました。

従って、刺激を嫌う部位の消毒に適しており、又、ヨウ素が安定化されているところから、乳頭の消毒薬として用いられています。特に搾乳機で乳孔の広がった乳頭のディッピングには粘膜への刺激性が少ないのとヨードで着色することから汎用されています。

#### 【消毒作用】

ヨウ素の消毒力は極めて強く、有効スペクトルも広いのが特徴です。ほとんどの細菌、真菌、ウイルス、原虫、寄生虫卵などに有効です。グラム陰性菌、グラム陽性菌のいずれにも有効であり、接触すると 1 分以内で死滅します。しかし、芽胞に対しては 10 分以上の時間が必要です。

#### 【成分及び分量】

|           |        |
|-----------|--------|
| 本剤 1 mL 中 |        |
| ポビドン・ヨード  | 100 mg |
| (有効ヨウ素)   | 10 mg  |

#### 【効能又は効果】

乳頭の消毒

#### 【用法及び用量】

本品を希釈し、ポビドン・ヨードとして 2 %（有効ヨウ素濃度 0.2 %）となる水溶液（本剤の 5 倍水溶液）を作り、以下の用法及び用量で使用する。

乳頭：搾乳後、適量を乳頭に塗布又は噴霧する。

#### 【使用上の注意】

##### （基本的事項）

- 守らなければならないこと  
（一般的注意）
  - 本剤は獣医師の指導の下で使用すること。
  - 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
  - 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- （牛に関する注意）
  - 本剤は外用以外に使用しないこと。
  - 搾乳直前の乳房・乳頭の消毒は避けること。
- （取扱い及び廃棄のための注意）
  - 本剤の外観又は内容物に異常が認められた場合は使用しないこと。
  - 本剤は他の薬剤と混合して使用しないこと。
  - 希釈液は、使用の都度調製すること。また、希釈液を調製する場合は、次のことに注意すること。
    - ① 原液は、油脂や他の薬品類と直接接触させないこと。
    - ② 鉄、亜鉛、ブリキ等の金属器具を腐食させることがあるので、プラスチック製又はステンレス製の容器等で調製すること。
    - ③ 調製に使用する容器は、あらかじめ十分に水洗いしておくこと。
  - 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
  - 小児の手の届かないところに保管すること。

- ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
  - ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
  - ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
2. 使用に際して気を付けること
- (使用者に対する注意)
- ・本剤が眼に直接入らないように注意すること。
  - ・万一、眼に入った場合には、多量の水道水で洗った後、眼に異常が感じられる場合には、医師の診察を受けること。
  - ・過敏症体質者等で、発赤、掻痒感等の過敏症状が現れた場合には、直ちに使用を中止すること。
  - ・手に傷がある場合は、手袋等を装着し、薬剤が傷口に直接付着しないよう注意すること。
- (牛に関する注意)
- ・開放性の傷口がある場合は刺激することがあるので、使用の可否については慎重に判断すること。
  - ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
  - ・本剤が誤って眼、鼻、口等に入ると刺激があるので、入らないように注意すること。

## 【包装】

2 L    20 L

## 【製品情報お問い合わせ先】

フジタ製薬株式会社  
〒193-0942 東京都八王子市柵田町1211  
電話 (042) 661-5528 (代)

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

製造販売元



**フジタ製薬株式会社**

東京都品川区上大崎2丁目13番2号  
<http://www.fujita-pharm.co.jp>

**FUJITA PHARM**